

「借耕牛」通じ豊かさ問う

香川と徳島の慣習 映画に

農繁期に徳島県西部から香川県の農家に農耕用の牛が貸し出されていた慣習「借耕牛」を題材にした長編映画の製作が進んでいる。タイトルは「黒の牛」。徳島県三好市出身の映画監督眞哲一朗さん(37)＝東京都在住＝がメガホンを取る。人と牛が共に田畑を耕しながら自然とのつながりを取り戻そうとする物語で、「本当の豊かさ」を問いかける。三豊市や観音寺市でもロケを行い、来秋以降に劇場公開を予定している。

借耕牛は、江戸時代中期から1970年ごろまで続いた慣習。多くの牛を飼育していた徳島県の三好市や美馬市から、香川県の農家が田植えや稲刈りの時期に牛を借り受け、対価を米で支払っていた。最盛期には8500頭が讃岐山脈の八つ峠を往還したと伝えら

眞監督製作 三豊・観音寺でロケ

「黒の牛」は、明治期の徳島県西部を舞台に、山間に暮らす1人の男性と1

れる。

眞さんは、牛を主役とした映画を撮りたいと考え、徳島と香川の交流を担った借耕牛に注目。禅宗の教えを十枚の絵で表現した「十牛図」に着想を得てオリジナルの脚本を執筆した。



讃岐山脈を越えて徳島県と香川県の間を行き来した借耕牛(資料)

頭の牛が過ごす日々を主にモノクロ映像で描く。主演は、台湾を拠点に世界的に活躍する俳優李康生さん。

作品で重要な役どころの禅僧を世界的ダンサーで俳優の田中泯さんが演じる。

5月11日に徳島県三好市でクランクイン。四国各地のほか、台湾でも撮影を行う。三豊市と観音寺市では今月上旬に撮影が始まり、三豊市では同月中旬に市が募集したエキストラ約100人が出演する大がかりなロケを予定している。

眞さんは「祖谷物語―おくのひと―(2013年)で数多くの映画賞を受賞。

池田高校野球部の監督として春夏3度の甲子園制覇を遂げた祖父の故文也さんのドキュメンタリー映画「眞監督―高校野球を変えた男の真実―」(15年)でも話題を集めた。

「黒の牛」製作に当たって、借耕牛を約30年間調査研究し、著書「あわ／さぬき 借耕牛探訪記」を今年出版した高松市のデザイナー―富田紀久子さん(77)に話を聞くなどして構想を固めた。眞さんは「人と牛が、大地とともに心を耕し、仏教的な『無』に至る映画。言語を超えて、肉体で牛と語り合い、一つになっていく姿をフィルムで収められるのが大変楽しみ」とコメントしている。



史跡「一夜庵」で行われた映画「黒の牛」の撮影リハーサル＝8日、観音寺市八幡町